

令和4年度中部山岳国立公園上高地集団施設地区再整備基本構想策定業務

第2回公開ヒアリング有識者意見への対応表

No.	意見	対応	関連ページ
浅井 功 氏			
1	帝国ホテルでは、サステナブルツーリズム、レスポンスブルツーリズム等の取組として、アメニティを竹製・木製へと変更しており、アメニティの持ち帰りや利用者の満足度が上がっている。また、帝国ホテルで使用するエネルギーに伴うCO2排出量を実質ゼロで運営しておりカーボンオフセットへの取組を実施している。	「サステナブル社会の実現」の「①環境配慮の取組の強化と可視化」における具体的な取組として参考にいたします。	p33
2	建築物の長期使用を考慮した設計、施工と維持保全が必要である。		
3	エコマーク認可の商品やホテルや旅館における省エネ・節水・廃棄物削減などの基本的な環境対策の取組が、宿泊施設の環境活動への利用者の理解を深め、宿泊を通して環境配慮への気づきを与える環境コミュニケーションにつながる。	環境活動への理解や環境コミュニケーションの促進も念頭に、「サステナブル社会の実現」の「①環境配慮の取組の強化と可視化」に取り組みます。	p33
4	ホテル事業者と公園利用者の両者で国立公園、上高地の自然の保全への取組や意識を向上させる必要があるため、ゲート等で自然保護への取組等（20分程度の説明）を認識していただいた方のみ、上高地に入ることができる仕組みを導入してはどうか。	利用者への普及啓発を実施するため、「ナショナルパークとしての設え」の「③国立公園（上高地）のレギュレーションを伝える設え（利用者の心構え）」を追加しました。	p19
東 英樹 氏			
1	車両のhybrid・EV化は必要である。	「サステナブル社会の実現」の「②上高地だから目指すべきCAR-LESS Resortの推進」に記載の通り、バスやタクシー管理車両等の電気自動車化の推進していきたいと考えています。	p33
2	上高地、高山、新穂高、白骨、美ヶ原の入山料やバスの利用等のフリーパス化を導入してはどうか。	今回の上高地〇集未来構想には記載できませんでしたが、今後の取組みの参考といたします。	—
3	登山の山岳ベースとしての機能（装備店、レンタル、食糧、ガイド組会い、ヤマテン）を導入してはどうか。	ご意見をふまえ、「利用の分散と誘導」に「③登山利用者が利用しやすい山岳ベースの創出」を追加いたしました。また、「自然体験プログラム」の「①VC展示内容の再構築」において、魅力的な展示導入の検討を行います。	p25,p20
4	登山基地としての歴史やそれ以前の歴史を伝える展示等をおこない、山岳絵画、山岳写真、山岳図書を保有する山岳博物館の再構築を実施してはどうか。		
5	上高地集団施設地区内には、子ども達を楽しめる展示やプログラム、場所が少ない。	「自然体験プログラム」の「①VC展示内容の再構築」と「②多種多様で自然と利用者をつなぐプログラム」や、「野生動物との共生」の「②野生動物とのかかわり方の学びの機会」において、子どもも楽しめる空間や体験を検討します。	p20,p32
6	道案内やパンフレット等が必要である。	分かりやすい案内をするため、「利用の分散と誘導」の「③上高地ゾーニング・利用動線を周知するためのサイン計画」に取り組んでいきたいと考えています。	p24
7	登山利用者と自動車の歩車分離が必要である。	関係車両の総量規制や時間規制により歩車分離を目指すため、「サステナブル社会の実現」の「②上高地だから目指すべきCAR-LESS Resortの推進」記載の通り、適切な歩車分離について検討してまいります。	p33
8	焼岳の噴火も考慮し、上高地から沢渡へ抜けるトンネルが必要である。	本構想では記載できませんが、噴火に対する防災対策は継続して関係機関と検討してまいります。	—

No.	意見	対応	関連ページ
古幡 開太郎 氏			
1	若い人達が登山や自然観察などの活動ができる環境づくり（アクセスのしやすさ、安価な宿泊施設、登山用具や自然観察用具のレンタルサービスの充実、登山と自然ガイドの窓口の一本化）が重要である。また、松本市内の小・中学生が上高地自然観察を行い、若い上高地ファンを増やすことも必要である。	多世代が上高地の自然や歴史が学び体験できる環境づくり等も含め、「真の上高地を伝えるIP計画とAllNationalPark Staff」の「①IP（インタープリテーション）計画の構築」において検討してまいります。	p16
2	北アルプス・上高地の自然と歴史を知ることができる体制の整備（W. ウェストン師、田淵行男、上高地の開発史、北アルプスの登山史の展示の充実）や自然保護活動の徹底と啓蒙（梓川の冬期浚渫、高山植物の保護・復活、QRコードを活用するなどDXを活用した上高地の自然・歴史の解説充実）が必要である。		
3	上高地の情報をリアルタイムに世界に発信する体制の充実と北ア全域のWi-Fi環境の整備（情報発信と安全確保）が必要である。	引き続き、Wi-Fi環境の整備に向けて調整して参ります。	—
4	ヤマレコやジオグラフィカなどの活用により、登山者の位置情報が活用でき、遭難救助をはじめ危機管理ができるだろう。	防災として、ツールの活用等も含めた多様なソフト対策を検討してまいります。	—
5	雨の日でも上高地が楽しめる環境づくりと観光客が分散出来る環境づくり（雨の日の上高地に来た人への情報提供サービスの充実、雨よけ施設としてのインフォメーションセンター二階の活用、バス待ちの登山者・観光客の雨よけの設置）が必要である。	ご意見をふまえ、「利用の分散と誘導」の「②既存施設、資源の利活用」において、民間活力の活用も含めた、雨天時の対応を検討してまいります。また、「自然体験プログラム」の「①VC展示内容の再構築」において、雨天時も楽しめるコンテンツ導入を検討してまいります。	p23,p20
6	上高地ビジターセンターを上高地博物館（年間1回くらいの展示替え企画展等により集客を図る工夫、ウェストン師、田淵行男、梓川、上高地の蝶などの企画展）として整備してはどうか。	フレキシブルかつ魅力的な展示の導入等を検討するため、「自然体験プログラム」の「①VC展示内容の再構築」を整理いたしました。	p20
7	上高地周辺のリスク回避と管理（サル、クマ、カモシカ、トビなど動物から登山者や観光客の被害を予防・回避する対策）が重要である。	「野生動物との共生」の「①持続可能な環境整備」や「②野生動物とのかかわり方の学びの機会」に記載の通り、野生動物への対策等に取り組んでまいります。	p32
8	梓川氾濫による洪水からの旅館や施設の被害防止策と登山者観光客の安全確保策、焼岳噴火時の上高地の安全確保や避難のマニュアル作成など、防災対策が重要である。	梓川氾濫については、「景観と調和した防災」の「①河床上昇対策の継続」と「②追加対策の検討」に記載の通り、歩倍防止策に取り組んでまいります。また、噴火時の防災対策についても引き続き検討してまいります。	p27-28
9	島々谷登山路の改修・安全確保が必要である。	上高地集団施設地区外となるため本構想では記載しませんが、今後の対策検討の参考といたします。	—
10	冬期の上高地利用環境の整備（冬期登山者のオーバーユースから上高地自然環境を守る対策、冬季利用できるトイレ、冬季の入山制限）が必要である。	「サステナブル社会の実現」に「④共生に向けた地域・体制づくり」を追加し、必要な対策に取り組んでまいります。	p34
11	入山する前（釜トンネルまで）に上高地の概要（季節毎のポイント等）を説明するようなラジオや音声ガイドが必要である。	利用者への普及啓発を実施するため、「ナショナルパークとしての設え」の「③国立公園（上高地）のレギュレーションを伝える設え（利用者の心構え）」に記載の通り、今後検討して参ります。	p19

No.	意見	対応	関連ページ
佐藤 泰那 氏			
1	エリア内で使用する洗剤や石けんなどを、オーガニック由来のアイテムに限定してはどうか。	「サステナブル社会の実現」の「①環境配慮の取組の強化と可視化」における具体的な取組として参考にいたします。	p33
2	国立公園の認証マークや国立公園オリジナルの商品（環境負荷が少ない）、お土産品等の開発を行ってはどうか。また、訪問するごとに価値が上がるNFTを配布してはどうか。（リピーター特典の例：記念の山パッチ、静かな時間帯に貸切で一部エリアをじっくり味わえる、スペシャルなガイドツアーに参加できる、上高地～横尾までの徒歩を特別なモビリティでスキップできる、四季折々の写真やイベント情報が届く、上高地グルメのクーポン）	ご意見をふまえ、「上高地リピーターの創出」の「②上高地リピーター認定事業」にて、「ロイヤリティの高い「上高地ファン」の醸成」を追加いたしました。また、「サステナブル社会の実現」に「④共生に向けた地域・体制づくり」を追加し、利用者も含めた連携の強化を図ります。	p21,p34
3	上高地の未来を作っていきたい仲間が集う分散型自立組織として、旅人DAOを結成してはどうか。足を運ばないデジタル旅人も寄付の形で貢献できるだろう。DAO加入特典として、中部山岳国立公園管理事務所の会議を傍聴できる、重要な決定（施設のリニューアル、入山料など）に一票投じることができる、ビジターセンターの展示の企画会議に参加できる等が考えられる。		
4	超プロフェッショナルガイドツアーとして、上高地の“沼”へと誘う（「水」と「地形」を掘り下げる、古地図をもって、歴史をたどる、おいしいものを食べ尽くす（梓川の水の恵み））ものはどうか。また、上高地を知るとい意味では、五感で感じることができる（食べる、触る等々の体験）プログラムが必要である。	上高地ならではの体験ができるよう、「真の上高地を伝えるIP計画とAll National Park Staff」の「①IP（インタープリテーション）計画の構築」に取組む中で検討してまいります。	p16
5	子どものころから「国立公園」を身近に感じられる機会を増やせないか（小中学生が遠足や修学旅行などで国立公園を滞在する、「アウトドア」の課外学習を必修）。	「自然体験プログラム」の「①VC展示内容の再構築」と「②多種多様で自然と利用者をつなぐプログラム」や、「野生動物との共生」の「②野生動物とのかかわり方の学びの機会」に記載の通り、子どもも楽しめる空間や体験を検討します。	p20,p32
6	訪れる予定の旅人へ、事前情報（「上高地5つのルール」等）を届ける工夫が必要である。	利用者への普及啓発を実施するため、「ナショナルパークとしての設え」の「③国立公園（上高地）のレギュレーションを伝える設え（利用者の心構え）」に取組む中で検討してまいります。	p19
7	嗜好にマッチしたガイドさんの予約が可能、展示スペースでは訪れるごとに新しい発見がある等の工夫を取り入れ、ビジターセンターを学びの拠点にしてはどうか。	「自然体験プログラム」の「①VC展示内容の再構築」に記載の通り、フレキシブルかつ魅力的な展示の導入等を検討します。また、「多主体との連携による施設づくり・運営」の「②民間事業者と連携した施設づくり」に記載の通り、民間事業者やデザイナー等との連携によるビジターセンターの機能強化に取組んでまいります。	p20,p29
8	アーティストインレジデンスのような取組を実施し、世界各国のアーティストが学んだ上で、魅力を伝えるための作品を制作し、ビジターセンターに展示してはどうか。		
9	物語と遊び心のあるベンチを各所に設置してはどうか。（例：中房・燕岳登山口にて松本のクラフト作家が地元木材で制作、乗鞍高原・一の瀬園地にて倒木を活用）	「多主体との連携による施設づくり・運営」の「②民間事業者と連携した施設づくり」に記載の通り、民間事業者や利用者の寄付や投資による整備について整理しております。物語性やデザイン性の向上については、具体的な取組として参考にいたします。	p29
10	小梨平キャンプ場に移動型木造ソーラーハウスを複数台設置してはどうか。（wi-fiを完備したワーケーション対応 やソーラーパネルによる稼働、地元木材の有効活用、近隣の災害時における活用を想定）	小梨平キャンプ場の今後の活用案として、参考にいたします。	—
11	上高地未来構想の策定の過程に、ファンクラブや事業者が携わることが重要。	ファンクラブの結成には至りませんでした。構想策定の過程で地域の事業者の皆様の意見をいただきながら策定いたしました。	全体
12	自然の中で過ごすことの楽しさを伝えるプログラムが必要である。目標を一つに設定するのではなく、自身の体験や取組が地域に貢献していることが可視化されるプログラムが重要である。	ご意見をふまえ、「自然体験プログラム」の「②多種多様で自然と利用者をつなぐプログラム」を追加いたしました。	p20

No.	意見	対応	関連ページ
山田 桂一郎 氏			
1	共通アイコンを使用して、上高地の地域ブランドを確立していくことが重要である。	ご意見をふまえ、「上高地リピーターの創出」の「②上高地リピーター認定事業」にて、「ロイヤリティの高い「上高地ファン」の醸成」を追加いたしました。	p21
2	上高地へのアクセス性を利便にしすぎないことで、日帰り客を少なくし、1泊2日以上滞滞在時間の長い客を多くすることを目指すべき。		
3	ロイヤリティや地域愛着の高い観光地を目指すことで、上高地のファンの増加を目指す。上高地のコアなファンを満足させ、つながることが必要である。上高地のファンがエリアに入園した際に、上高地の情報をスマートフォン等に伝える仕組みを導入してはどうか。		
4	上高地に訪れた回数が多い観光客に、ロイヤリティマーク（バッジ等）をつけてもらい特別なサービスを提供する仕組みを導入してはどうか。		
5	施設とサービスと景観の質を上げることが重要である。	これまでの検討や本構想をもとに、質の向上に取り組みます。	全体
6	人の生活や従業員の生活（山との関わり）を可視化する取組やイベント等を公園利用者に体験させることで、質の高い「異文化体験」や環境教育プログラムを提供させることができる。	ご意見をふまえ、「自然体験プログラム」の「②多種多様で自然と利用者をつなぐプログラム」を追加いたしました。	p20
7	上高地の公園利用者を想定し、未来構想を検討することが重要である。	ご意見をふまえ、利用体験イメージを追加いたしました。	
8	焼岳噴火時のハード・ソフトの対応策が必要である。（大正池近辺からのトンネル等）	噴火時の防災対策についても引き続き検討していきます。また、大正池周辺は上高地集団施設地区外となるため本構想では記載しませんが、今後の検討の参考といたします。	—
9	上高地で働く従業者が上高地への愛着（地域愛着）を生む経営や、上高地で働きたいと思わせる給与体系や福利厚生仕組みが必要である。	「真の上高地を伝えるIP計画とAllNationalPark Staff」の「②All National Park Staffに向けた情報共有」の一環として、今後の検討の参考といたします。	p17